

タイトル	献辞 大濱徹也先生(退職記念)
著者	船岡, 誠
引用	北海学園大学人文論集, 38: 19-20
発行日	2008-03-00

献辞 大瀨徹也先生

船 岡 誠

大瀨徹也先生は、平成13年4月に着任いらい現在に至るまで、本学の教育・研究はもとより大学院の運営の面でも多大なる貢献をなさいました。

先生は昭和39年3月東京教育大学大学院文学研究科修士課程を終えられ、家業の(株)大瀨書店勤務を経て、昭和42年4月から女子学院高等学校教諭、昭和47年4月から中京大学法学部助教授、昭和52年4月から同教授に、さらに昭和53年9月からは筑波大学歴史・人類学系助教授、昭和61年12月から同教授として教育・研究に携われました。昭和52年4月には東京教育大学から文学博士の学位を授与され、平成13年3月の退官後に筑波大学名誉教授の称号を与えられました。

この間先生は、『乃木希典』(昭和42年)、『明治の墓標「日清・日露」一埋れた庶民の記録一』(昭和45年)、『大江スミ先生』『天皇の軍隊』(昭和53年)、『明治キリスト教会史の研究』(昭和54年)、『近代日本の虚像と実像対談 山本七平・大瀨徹也』(昭和59年)、『女子学院の歴史』(昭和61年)、『鳥居坂教会百年史』(昭和62年)などをはじめとして多くの著作をものされました。また先生は、筑波大学にあっては昭和63年4月から日本語・日本文化学類長、平成6年4月から歴史・人類学系長、そして平成7年4月から同11年3月まで第二学類長と大学行政の重責を担われてこられました。

平成13年4月本学に着任された先生は、学部では日本近現代史と演習を、大学院では近現代特殊講義・演習を担当され、さらにその後は日本宗教思想史特殊講義、日本近代宗教史特殊研究を加えられ、その熱っぽい講義・指導は学生や院生に多くのものを残したと思われます。

先生の北海道とのかかわりは古く、昭和47年秋の浦河赤心社によるクリ

スチャン・コミュニティの調査にはじまり、筑波大学の北方圏プロジェクトで天塩川流域の入植移住者の事業と信仰世界を掘り起こす作業の責任者であり、『新編天塩町史』（平成5年）の編纂、手塩町歴史資料館も手がけられていました。本学就任時には、これからじっくり「天塩川流域生活文化史」をまとめたいとの想いを語っていらっしゃいましたが、持ち前の精力的な教師の貌は学生・院生指導に時間を割き、国立公文書館理事も兼ねていましたから東京・札幌間の往復に時間を取られ、さらにその行政能力のゆえに平成15年くらい現在に至るまで文学研究科長として大学院の指導体制づくりのために腐心されてこられました。

そうした多忙のなかにあっても相変わらず健筆をふるい、『日本人と戦争—歴史としての戦争体験—』（平成14年）、『庶民のみた日清・日露戦争—埋もれた庶民の記録—』（『明治の墓標』の増補・改題、平成15年）、『講談日本通史』（平成17年）、『アーカイブズへの眼—記録の管理と保存の哲学—』（平成19年）を世に出されました。

専門分野はと一言でいえないくらい、先生の学問は間口は広く、かつ懐が深い。そして先生の歴史を読み解く視座は、「勝手口の眼」すなわち日常生活の場がありました。その学風はしっかりと教え子たちに伝えられたと思います。どうぞこれからは、多忙な生活から解放され、念願の「天塩川流域生活文化史」の完成にむけてご精進ください。